

# 吉野・磯地区



旧重富島津家別邸主屋

## 紡績業発展の先駆けとなる近代的洋式紡績工場

わが国最初の洋式紡績所があった所で、現在はその当時の門柱が残っている。島津家29代当主忠義は28代当主斉彬の知遇を受けた石河確太郎のすすめで斉彬の遺志を受けつぎ、大規模な洋式紡績工場を建設するため、慶応元年（1865）に薩摩藩留学生と共に新納刑部・五代才助（友厚）をイギリスに派遣し、紡績機の購入と技師を招く交渉にあたらせた。慶応2年（1866）11月にイー・ホーム他3人の技師が到着し工場建設に着手した。翌年、プラット・ブラザーズ会社製の紡績機械とともに工場の技師であるジョン・テットロウ他2名も到着し、慶応3年（1867）5月に完成、操業を開始した。紡績所にはおよそ200人の職工が働き、1日10時間就業して、白木綿や綿

類を織った。紡績所は明治30年（1897）に閉鎖されたが、当時英国から輸入した紡績機は、現在は県指定文化財として尚古集成館に展示されている。なお、この紡績所が建設される前に斉彬は手織りの中村紡績所（真砂町国道沿い）、さらに水車利用の紡績工場である田上水車館（田上町）、永吉水車館（永吉町）をつくり、日本の綿紡績業界に大きな貢献をした。この水車に使った歯車が尚古集成館に展示してある。

平成26年（2014）、国の記念物（史跡）として、「鹿児島紡績所跡」に名称を変え、指定された。

また平成27年（2015）に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとなった。



●所在地／鹿児島市吉野町(旧磯街道日豊線踏切近く) ●交通／異人館前バス停 ●駐車場／無

## イー・ホームら英国人技師7名の宿舎として建設された

鹿兒島紡績所の建設と操業の指導のために招いた英国人技師7名の宿舎として慶応3年（1867）3月に工場の西に接して建てられた。幕末・慶応から明治初期における洋風建築（住居）として極めて貴重な建造物である。

建物は、木造2階建て<sup>けたゆき</sup>桁行18.18m<sup>はり</sup>、梁間18.18m<sup>ま</sup>、建築面積は342.778㎡で延べ床面積は685.556㎡である。

鹿兒島城跡に建てられた中学造士館<sup>そうしかん</sup>（後の第七高等学校造士館）の教官室として明治15年（1882）鹿兒島城本丸跡に移されたが、昭和11年（1936）、この建物の価値が再認識され、再び現在地に戻し、市の管理する所となった。終戦後は進駐軍の宿舎として<sup>せつしやう</sup>接収されたが、昭和26年（1951）秋に

市に<sup>へんかん</sup>返還された。

昭和37年（1962）、国の重要文化財（建造物）に指定されている。

また平成27年（2015）に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとなった。



●所在地 / 鹿兒島市吉野町 ●交通 / 異人館前バス停 ●駐車場 / 有

## 薩英戦争で破壊されたが、忠義がただちに再建した

嘉永5年(1852)から島津家28代当主斉彬によって建設された反射炉や溶鉱炉、ガラス製造所、造船所などを総合した工業団地は安政4年(1857)「集成館」と総称された。これらの施設は、当時の産業、土木、建築などの歴史上の貴重な遺跡であり、特に現存する旧集成館機械工場は、慶応元年(1865)に建てられ、明治以前の洋式石造建築(工場)として、その規模・構造は、学術的に価値あるものである。

建物の規模は、主体部の面積が954㎡、ポーチ部分の面積は21㎡ある。建物の桁行は76.9m、梁間は12.4mである。建物の構造形式は組石造り、平屋建、小屋組木造、洋小屋(キングポスト風トラス)となっている。建物外壁の石積みは小野石を用い、根石を亀腹形にして外部に円弧をつけ、要所にバットレスを取りつけて積み上げ、粗面仕上げとなっている。建物の内壁及び窓と出入り口は石肌の上に漆

喰塗り、木部はベンキ塗りで仕上げている。小屋組の合掌尻の断面を大きくし、上部にゆるやかなカーブを付け、陸梁との仕口は添え板式ボルト締めとなっている。建物の屋根は瓦葺きであり、窓には上部をアーチ型とし、外部に鑄鉄製格子をはめ、木製の上げ下げ窓となっている。建物の出入り口は、木製唐戸および鉄扉の開き戸となっている。

大正12年(1923)に「尚古集成館」と名付けられて、現在は島津家歴代の資料約10000点を収蔵する博物館として利用されており、特色ある歴史の縮図が集成されている。

昭和37年(1962)、国の重要文化財(建造物)に指定された。

また平成27年(2015)に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとなった。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交 通／シティビュー 仙蔵園前バス停 ●駐車場／有(有料)

## 英国公使パークスにも接待された雄大な借景大名庭園

古来、わが国の名園として知られているものの中には、植樹・園地・石組など、細部の美を得たものが少なくない。しかし、仙巖園は庭園に桜島や鹿児島（錦江）湾などの周囲の自然の景観を取り入れて借景の手法を用いた近世大名の庭園であり、これほど雄大な構想のものはまれであり、わが国の造園史上貴重な庭園であるばかりでなく、芸術的な遺産としても価値の高いものである。

仙巖園は、万治元年（1658）に島津家19代当主光久が別邸として造営したものである。この地は、対岸に桜島を望み、後背地は始良カルデラの絶壁で奇岩・奇石が多く、中国龍虎山の仙巖に似ていることから「仙巖園」と名付けられ、その後、21代当主吉貴の時代に曲水の庭が設けられたと伝えられる。吉貴はまた、琉

球経由で中国から孟宗竹を輸入して、わが国で初めてこの庭に植えた。さらに、27代当主斉興は嘉永元年（1848）に海岸を埋め立て、現在見られるような大名庭園としての回遊式形態が整った。

この庭園の特色は、常緑の磯山を背景にして、前面に錦江湾と秀麗な桜島の自然をそのまま取り入れた雄大絶佳な借景庭園であることにある。また、斉興の時代の庭園後背地絶壁の「千尋巖」の文字や庭園の北方約1km奥に建てられた花倉御飯屋跡も貴重な史跡である。

昭和33年（1958）、国の記念物（名勝）に指定された。

また平成27年（2015）に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとなった。



●所在地／鹿児島市吉野町（仙巖園内） ●交 通／シティビュー 仙巖園前バス停 ●駐車場／有（有料）

## 仙巖園内濾過池 ▶せんがんえんないろかち

国登録／有形文化財／建造物

【MAP I-8】

### 鹿児島県の石造技術の高さがうかがわれる



仙巖園内濾過池は、国指定名勝仙巖園附花倉御仮屋庭園の指定区域の隣接地にあるもので、仙巖園西方にある千尋巖付近から石製水道管を伝って流れてくる湧水を濾過するためのもので、明治40年（1907）

9月に2か月間の工期で竣工したものである。

この仙巖園内濾過池は、地下2.4mの位置に敷設された水道石管から取水し、濾過の後に敷地内各所に配水する。大型切石積の壁面から石造ヴォールト天井を架け、その上に和風を意識した切妻屋根を置いたものである。石造技術は見事で鹿児島県の石造文化の特質をよく示している。

平成13年（2001）、国の有形文化財（建造物）に登録された。



●所在地／鹿児島市吉野町(仙巖園内) ●交通／シティビュー 仙巖園前バス停 ●駐車場／有(有料)

## 磯珈琲館（旧芹ヶ野島津家金山鉱業事業所）

▶いそこーひーかん（きゅうせりがのしまづけきんざんこうぎょうじぎょうしょ）

国登録／有形文化財／建造物

【MAP H-8】

### 丸みを帯びた入母屋ムクリ屋根の洋風木造建築



磯珈琲館は、明治37年（1904）に芹ヶ野島津家金山鉱業事業所として、いちき串木野市（旧串木野村）に建設されたものである。建築様式は、建設面積158.19㎡の洋風木造建築で、2階にベランダが設けられ、2階部分の屋根が寄棟、正面右手の1階部

分と玄関の屋根が丸みを帯びた入母屋のムクリ屋根となっている。その後、大正12年（1923）に株式会社島津興業の前身である薩摩興業株式会社の事務所として鹿児島市に移築された。昭和26年（1951）に社名を現在の社名に変更した後も本社屋として利用されていたが、新社屋の建設に伴って昭和61年（1986）に現在地に移築され、磯珈琲館として現在使用されている。

平成11年（1999）、国の有形文化財（建造物）に登録された。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／異人館前バス停 ●駐車場／有(有料)

磯工芸館(旧島津家吉野殖林所) ▶いそこうげいかん(きゅうしまづげよしのしょくりんじょ)

国登録/有形文化財/建造物

[MAP H-8]

やや丸みを帯びた切妻ムクリ屋根の洋風木造建築



磯工芸館は、磯珈琲館と同じ敷地の北側に国道に面して建てられている。建物は、明治42年(1909)に島津家吉野殖林所として鹿児島市(旧吉田村)に建設されたものである。設計者は隈元長栄、施工者は丸田

十兵衛であることが判明している。建築様式は、建築面積178.26㎡の1階建ての洋風木造建築で、前面にバルコニーが設けられ、玄関はやや丸みを帯びた切妻のムクリ屋根となっていて、開放的な印象を与えている。この建物は、昭和61年(1986)に現在地に移築され、磯工芸館として薩摩切子、薩摩焼その他の工芸品の展示場及び売店として使用されている。

平成11年(1999)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地/鹿児島市吉野町 ●交通/異人館前バス停 ●駐車場/有(有料)

潮音館(旧重富島津家住宅米蔵) ▶ちようおんかん(きゅうしげとみしまづげじゅうたくこめくら)

国登録/有形文化財/建造物

[MAP H-9]

島津家家紋を残す石造りの米倉



鹿児島(錦江)湾の北端に位置した島津久光の四男珍彦(旧重富島津家、元貴族院議員)の別邸地内に残る旧米蔵で、現在は喫茶店として活用されている。

桁行5間、梁間2軒半の規模で、切妻

造、棧瓦葺の平屋建であり、妻上部に島津家の家紋を刻んだ石をはめている。

窓の庇をかねた楯石や軒蛇腹の石材加工の精度も高い。

平成19年(2007)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地/鹿児島市清水町 ●交通/シティビュー 紙園之洲公園前バス停 ●駐車場/有

## 旧重富島津家別邸主屋・旧重富島津家別邸石塀

▶きゅうしげとみしまづげべっていしゅおく・きゅうしげとみしまづげべっていしべい

国登録／有形文化財／建造物

【MAP H-9】

### 旧大名家の上質な別邸建築



現在、結婚式場となっている旧重富島津家別邸主屋は敷地の中央に南面し、謁見の間など三棟を雁行配置して、各々に縁と下屋を廻らせ、東端に入母屋造の玄関を構えている。各室内には銘木を使い、優れた意匠の座敷飾りを構える。また室境の透彫欄間や杉戸などの建具も気品を備えている。

石塀は、主屋の謁見の間北東から東方の庭園部に向かって建てられたもので、総延長は約24mである。溶結凝灰岩の切石を布積みし、さらにイギリス積み煉瓦塀を積み重ね、棧瓦葺とする。敷地の起伏に応じて屈曲し、高低も変えており、重厚な形式ながら変化のある景観をつくっている。

平成26年(2014)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地／鹿児島市清水町 ●交通／シティビュー 祇園之洲公園前バス停 ●駐車場／有

### 心岳寺跡 ▶しんがくじあと

市指定／記念物／史跡

【MAP J-5】



天正20年(1592)7月18日、自刃して果てた島津歳久の菩提所である。初めは心岳寺であったが明治2年(1869)寺を廃止し、新たに平松神社を建立した。

秀吉の薩摩征伐に際し、歳久は最後まで

薩摩兵児の意気込みを示して抵抗したため、のちに秀吉の恨みを買ひ、自刃させられた悲劇の武将である。

秀吉の死後、島津家16代当主義久は歳久の霊を祭るために心岳寺を建立した。

平成12年(2000)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／平松バス停 ●駐車場／無



## ペリー来航の年に築かれ、薩英戦争の激戦地となる



祇園之洲は、天保年間（1830～1844）に稲荷川の土砂を積み上げてできたものである。島津家28代当主斉彬は嘉永3年（1850）から安政5年（1858）までに、この祇園之洲、新波止場、大門口、天保山、赤水、烏

島、袴腰、沖小島に砲台を築いた。

これらの砲台は文久3年（1863）7月の薩英戦争で活躍したが、なかでも祇園之洲砲台では激戦が行われ、10座の砲台、70余名が守備していたが、英艦アームストロング砲の攻撃で西側の1門のみ残してあとは使用不能になったという。

昭和49年（1974）、鹿児島市の記念物（史跡）に指定された。



●所在地／鹿児島市清水町（祇園之洲公園内） ●交通／シティビュー 祇園之洲公園前バス停 ●駐車場／有（石橋公園内）

## 東郷平八郎銅像 ▶ とうごうへいはちろうどうぞう

## 捨て身の丁字戦法でバルチック艦隊を破る



明治38年（1905）の日本海海戦で功績のあった東郷平八郎元帥の遺髪が葬ってある（誕生地は加治屋町の鹿児島中央高校内）。

ここにある東郷元帥の銅像は、旧海軍関係者の「かもめ会」が昭和32年（1957）に建

立。銅像への階段は軍艦の舷梯を模して急勾配になっている。元帥の命日5月30日には慰霊祭がこの墓前で挙行される。

また、この一帯は多賀山公園で、鹿児島（錦江）湾と桜島を一望にのぞむ景勝の地である。公園内には鹿児島に最初に築城された東福寺城跡の碑や、春には500本の桜が咲き競う桜花園等がある。



●所在地／鹿児島市清水町（多賀山公園内） ●交通／シティビュー 祇園之洲公園前バス停 ●駐車場／無

## 東福寺城跡 ▶とうふくじじょうあと

記念物／史跡

【MAP H-9】

### 肝付兼重を攻略し、以後島津氏の鹿児島進出の拠点となる



矢上氏の一族、長谷場氏が天喜元年(1053)頃築いた山城で、俗に長谷場城ともいう。現在の碑は大正12年(1923)3月に市が建てたものであるが、実際の城跡は、もっと北へ向かった摩利支天祠のあ

る愛宕山あたごやまのあたりではないかという説もある。

東福寺城では暦応4年(1341)肝付兼重らと島津家5代当主貞久との激しい戦いがあり、島津の手に落ちた。公園の入口には肝付兼重奮戦ふんせんの跡の碑がたっている。東福寺城は貞久から6代当主氏久(奥州家)の手にゆだねられ、以来鹿児島島が島津氏の拠点となった。そして氏久の子、7代当主元久の時代に東福寺城から清水城に移った。



●所在地／鹿児島市清水町(多賀山公園内) ●交通／シティビュー 祇園之洲公園前バス停 ●駐車場／有

## 月照上人の追悼碑 ▶げっしょうしょうにんのついとひ

記念物／史跡

【MAP J-7】

西郷隆盛、月照上人の入水の地が三船沖ということから、旧吉野村温古会の有志によって、月照上人の追悼碑が昭和2年(1927)に建てられた。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／三船バス停 ●駐車場／無

## 月照上人の遷化の碑 ▶げっしょうしょうにんのせんげのひ

記念物／史跡

【MAP I-8】

安政5年(1858)11月16日、海中に身を投じた西郷隆盛と月照上人を土地の人々はこの地でいねいに介抱した。このことを記念して大正15年(1926)に建てられた。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／花倉バス停 ●駐車場／無

## 西郷隆盛蘇生の家 ▶さいごうたかもりそせいのおえ

記念物／史跡

[MAP I-8]

この地は、安政5年(1858)11月16日未明に、海中に身を投じた西郷隆盛、月照上人の2人をこの砂浜において焚火をもって暖め、付近の坂下長右衛門宅に収容し、手厚く介抱した場所である。月照は亡くなったが、大久保利通などによって手厚く南林寺に葬られた。月照の墓は現在、南洲寺の境内にある。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／花倉バス停 ●駐車場／無

## 月船寺跡 ▶げっせんじあと

記念物／史跡

[MAP H-8]

大磯山・月船寺で大磯山にある。城州宇治郡黄檗山万福寺の末寺で、これは薩藩黄檗宗の最初の寺である。釈迦如来を安置して本尊とし、木庵禪師(万福寺2世)が開山である。はじめ当寺は、始良曹洞宗含粒寺の末寺ですたれていたが、元禄14年(1701)愚門和尚が再興した。愚門和尚は木庵禪師の弟子で熱心に修学し、27年間同寺の住職をつとめたが、享保13年(1728)2月28日、かねて設けていた洞窟に入り、

磬を鳴らすこと7日、3月14日磬音が絶えたといわれている。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／異人館前バス停 ●駐車場／無

## 琉球松(琉球人松) ▶りゅうきゅうまつ(りゅうきゅうじんまつ)

記念物／史跡

[MAP H-9]

薩藩時代、琉球から船が入港する時の目印にしていたという大木の松がここにあった。石燈籠を抱くようにして茂った枝ぶりは磯浜の名物であった。終戦後、松くい虫のため枯れたので昭和28年(1953)に市が姫松数本を植え、その中の1本が根付いた。(石燈籠の左側の松)その後、昭和48年(1973)5月15日、那覇市から祖国復帰

1周年記念として琉球松が贈られた。(石燈籠の右側の松)



●所在地／鹿児島市吉野町(旧磯街道) ●交通／シティビュー 祇園之洲バス停 ●駐車場／無

## 菅原神社 ▶すがわらじんじや

有形文化財／建造物

【MAP H-8】

島津家19代当主光久が貞享3年(1686)に建てたものといわれている。菅原道真が祭っており、境内には昔の石鉢や石燈籠、牛の絵を刻んだ大きな自然石がある。本殿前の左側の石燈籠には、調所笑左衛門の銘がある。



●所在地／鹿児島市吉野町(旧磯街道) ●交通／磯海水浴場前バス停 ●駐車場／有

## 鶴嶺神社 ▶つるがねじんじや

有形文化財／建造物

【MAP H-8】

祭神は、島津家初代当主忠久をはじめとして、歴代当主、一族ならびに家臣団の靈魂を合祀している。もとより、島津家の墳墓は、福昌寺にあるが、明治2年(1869)の廃仏毀釈に際し、祖霊を神廟に改め祭ったものである。



なお国指定、重要文化財の太刀 銘「備前国住雲次」がここに奉納されている。

●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／シティビュー 仙巖園前バス停 ●駐車場／有

## 磯の造船所跡 ▶いそのぞうせんじょあと

記念物／史跡

【MAP H-8】

島津家28代当主斉彬は嘉永4年(1851)から蒸気船の研究をすすめ、安政元年(1854)には西洋式軍艦(昇平丸)を建造し、幕府に献納した。その年、艦船旗に日章旗を用いる事を提案し採用された。同年3月蒸気大艦の試作として、磯のこの地で船体を建造し、翌年雲行丸が誕生した。また安政3年(1856)に水軍隊の組織を發布し、藩士を訓練する制度をたてた。碑文の裏面

には雲行丸建造の関係者名などが記されている。



●所在地／鹿児島市吉野町 旧磯街道異人館入口 ●交通／異人館前バス停 ●駐車場／無

## 喜入町で初めて発見された珍しい寄生植物

キイレッツトリモチは、明治44年(1911)に鹿児島市喜入町(旧喜入町)ではじめて発見されたのでこの名がつけられた。その後、鹿児島市吉野町の現在地で多数生息しているところが見つかり、そのためこの地が指定されることとなった。

この植物は、九州や南西諸島などに自生する珍しい植物であり、この地は、本種の自生地として国から指定された唯一の場所である。キイレッツトリモチは、照葉樹のトベラやネズミモチの細長い根の部分に寄生し、11月頃に高さ10～15cm、直径2cmほどの黄白色円筒形の茎を地上に出す1年

生草木である。茎には10枚前後の肉質の葉をつけ、上部に黄褐色の花茎を出し、黄白色の小さな花をつける。

花は雌雄異花で同じ花茎につく。花は発芽しても葉緑体がないため、トベラやシャリンバイ・ネズミモチの根の先端に附着したのだけが成長することができる。

大正10年(1921)、国の天然記念物(植物)に指定された。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交 通／磯海水浴場前バス停 ●駐車場／無

## 桐野利秋誕生地 ▶きりのとしあきたんじょうち

記念物／史跡

【MAP H-8】

### 西郷の耳目となり動乱の時代を奔走したぼっけもん



「人切り半次郎」と呼ばれ、無類の豪胆さで知られた桐野利秋は、天保9年(1838)ここで生まれた。幼少から示現流の立ち木打ちに徹し、文久2年(1862)鳥津久光に従って上洛し、勤王の志士として、その名を天下にとどろかせた。西郷隆盛からも認

められ、戊辰戦争では東北にまで転戦して活躍した。

明治4年(1871)天皇の親兵隊を組織し、陸軍少将となった。明治5年(1872)、熊本鎮台司令長官、翌6年(1873)陸軍裁判所長となったが、同年征韓論争により帰郷し、私学校を設立、吉田の開墾に励んだ。明治10年(1877)の西南戦争では、薩軍の総参謀となり大活躍したが、同年9月24日城山の岩崎谷口で生涯を閉じた。



●所在地／鹿児島市吉野町(美方公園内) ●交通／市営 美方バス停 ●駐車場／無

## 美方太鼓橋跡 ▶さねかたたいこばしあと

記念物／史跡

【MAP H-8】

江戸時代に鹿児島と重富方面を結ぶ重要な道路にかかる橋として、交通上、大切な役割を持っていた。美しいアーチの橋であったが、平成5年(1993)の水害で流出した。



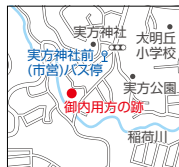
●所在地／鹿児島市東坂元4丁目 ●交通／市営 美方神社前バス停 ●駐車場／無

## 御内用方の跡 ▶ごないようかたのあと

記念物／史跡

【MAP H-8】

御内用方は薩摩藩主の使う最上質の紙を製造していたところである。古くからこの地で士族、農民の区別なく、家業として営んでいたといわれる。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／市営 美方神社前バス停 ●駐車場／無

## 別府晋介誕生地 ▶べつぷしんすけたんじょうち

記念物／史跡

[MAP H-8]

城山の岩崎谷で南洲翁を介錯した別府晋介は、弘化4年(1847)ここに生まれた。明治4年(1871)近衛陸軍大尉となり、少佐に進む。明治6年(1873)征韓論争後に帰郷、私学校の発展に寄与した。

明治10年(1877)2月、西南戦争が起こるや、大隊長として、熊本、川尻に先発、八代で重傷、人吉に逃げる。そして再び鹿

児島に帰り奮戦し、同年9月24日城山の岩崎谷口で生涯を閉じた。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／市営 実方バス停 ●駐車場／無

## 宮之城島津家墓跡 ▶みやのじょうしまづけはかあと

記念物／史跡

[MAP H-7]

天神山団地南口バス停の付近に宮之城島津家の墓地があった。島津家29代当主忠義の弟久治と島津長丸男爵の墓である。明治4年(1871)吉野小学校の前身の郷校設立の際、学校付近の山林の良材を無償提供され郷校校舎ができたといわれる。吉野村民は墓前に石燈籠1基を献じ、謝意を表したという。なおここより北へ150mのあたりの地点を篠者坂といい、清水城時代、刑

場のあったところであり、また有名な大石兵六夢物語の幽霊坂でもある。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／市営 天神山南口 ●駐車場／無

## 吉野薬園跡 ▶よしのやくえんあと

記念物／史跡

[MAP H-7]

校庭のなかほどにある市の保存樹アキニレの大木が、薬園のあった昔を偲ばせてくれる。

当時の藩主、島津家25代当主重豪は、オランダ商館の医師シーボルトとも親しく交わり、海外の知識や技術をとり入れたり、造士館や医学院などの藩校を建てたり、絵入りの農業の本「成形図説」を出版したりして、薩摩に新風を吹きこんだ人である。

薬園もその中の1つの新しい事業で、第28代当主斉彬に引きつがれた。ここに栽培された草木の種類は130種ぐらいいといわれ、広さ

は約1haもあり、上下2つの段々畑になっていたそうである。

吉野のほか佐多や山川にも薬園がつくられており、当時の薩摩藩は薬草研究のさきがりけとなった。



●所在地／鹿児島市吉野町(吉野小学校敷地内) ●交通／市営 大石様河バス停 ●駐車場／無

## 美方神社 ▶さねかたじんじや

有形文化財／建造物

【MAP H-8】

明治12年(1879)、天神山の天満宮と一緒にして現在地に建てられたといわれている。天照大神、菅原道真などが祭っており、毎年12月10日はホゼ祭りが行われている。鎮守の神ともいわれる。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／市営 美方神社前バス停 ●駐車場／有

## 駄馬落の跡 ▶だばらくのあと

記念物／史跡

【MAP H-7】

西郷隆盛が吉野開墾地から馬をひいて帰る途中、さつまいもを積んでいた馬が突然、下の畑に落ちてしまったということで、「積荷は唐芋、曳き手は西郷南洲翁」と記した石碑が駄馬落バス停近くに建っている。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／市営 駄馬落バス停 ●駐車場／無

## 鎮守神社と御石様の碑 ▶ちんじゅじんじやとおいしまのひ

記念物／史跡

【MAP H-7】

江戸時代前期頃に建てられた古い神社で、天照大神を祭っていた。境内の御石様の碑は、島津歳久の慰霊碑だが、安産の神としてもしたわれている。近くの大石様河の跡は豊かな水が湧いていて、歳久が水を飲んだといわれる。現在、井戸はふたがかぶせてある。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／市営 大石様河バス停 ●駐車場／無

## 牧雄吉胸像 ▶まきゆうきちきょうぞう

記念物／史跡

【MAP H-7】

吉野台地の水不足をなくすため、昭和9年(1934)、寺山-御召覧岡-雀ヶ宮間の用水工事を始め、昭和11年(1936)、通水に成功した。この大事業の中心になった牧雄吉の胸像は、吉野町雀ヶ宮の白山姫神社下にあったが、現在は御召覧公園内に置かれている。



●所在地／鹿児島市吉野町(御召覧公園内) ●交通／南国 帯迫バス停 ●駐車場／無



**新垣筑兵衛と是枝生胤の墓** ▶あらがきちくべえとこれえだいくたねのはか

記念物／史跡

[MAP H-8]

新垣は琉球の人で、清国（中国）の福州に3度も渡り、最も秘密にしていた唐紙の製造法をさぐって帰った。しかし、琉球では国のおきてをおかした国賊と見られ、薩摩にのがれて来た。唐紙の製造技術を薩摩に伝えたので、島津家25代当主重豪から大事にされ、藩士の地位も与えられた。

また是枝生胤は、小さい頃から八田知紀に和歌を学び、すぐれた歌人として、多くの門人を育てた。



●所在地／鹿児島市吉野町(雀ヶ宮地蔵坂墓地内) ●交通／雀ヶ宮バス停 ●駐車場／無

**雀ヶ宮のかくれ念仏洞穴** ▶すずめがみやのかくれねんぶつどうけつ

記念物／史跡

[MAP H-8]

この洞穴は、3つに分かれていて、手前から偽装洞穴・修行洞穴・説教洞穴となっていて、修行洞穴・説教洞穴は、16m30cmの間道でつながっている。説教洞穴には、本尊棚があって、大がかりな洞穴であったことがわかる。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／雀ヶ宮バス停 ●駐車場／無

**第12郷校顕彰碑** ▶だい12こうごうけんしょうひ

記念物／史跡

[MAP H-6]

吉野小学校の前身・第12郷校（藩校造士館帯迫、中別府分校を統合）創立の際、県は建築用材として吉野町の官有林を提供したが、吉野村民は村内にある宮之城島津家の領地に良質の杉材があることに着目、同家久治にお願いしたところ快く承諾、無償で提供され、明治5年（1872）開校した。この碑は、当時の

村民有志が久治の篤志に深く感謝し建立したもので、その経緯が記されている。



●所在地／鹿児島市吉野町(吉野公民館内) ●交通／南国 中学校前バス停 ●駐車場／有

**薬師山の庚申塔** ▶やくしやまのこうしんとう

有形民俗文化財／民俗資料

[MAP H-7]

高さが約2.4m、左手に宝珠、右手に錫杖を持った地蔵を浮き彫りにしたもので、八角形の台石に「延宝六天、二月彼岸」と「與右衛門」外22名の名が刻まれているところから、延宝6年（1678）に中野集落の人々によって建てられたものであると考えられる。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／あいばす 薬師山入口バス停 ●駐車場／無

## 旧集成館 附 寺山炭窯跡 関吉の疎水溝（寺山炭窯跡）

▶きゅうしゅうせいがん つげたり てらやますみがまあと せきよしのそすいこう（てらやますみがまあと）

国指定／記念物／史跡

【MAP J-6】

### 集成館事業の燃料として大量の白炭を必要とした



鹿児島市立少年自然の家の近くに寺山自然歩道がある。この歩道の入口から約160m入ったところに炭窯跡がある。江戸時代末、日本の近代文明を開くさきがけとなった島津家28代当主斉彬は、磯に集成館事業を起し、蒸気船や大砲などをつくった。この時大量の炭が必要となったが、当時、鹿児島では

石炭の採掘が困難であったため、奉行山元藤助などを先進地紀州（和歌山）に派遣し、木炭の製造法を研究させた。そしてこの地で木炭が製造されたが、現在残っている炭窯は1基だけである。なお、炭窯の前には、安政5年（1858）に建てられた石碑があり、薩摩の有名な歌人八田知紀の書いた炭窯をたたえる文が刻まれている。

平成26年（2014）、国の記念物（史跡）に指定された。また平成27年（2015）に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとなった。



●所在地／鹿児島市吉野町（寺山自然歩道内） ●交通／あいばす さずな学園前バス停 ●駐車場／有（寺山ふれあい公園）

## 寺山公園 ▶てらまこうえん

記念物／史跡

【MAP J-6】

### 鹿児島湾と雄大な桜島が一望の下に望める絶景地



吉野台地のなかで、もっとも高いところにある寺山公園の大崎鼻展望台に立つと、鹿児島（錦江）湾と雄大な桜島が目前にせまってくる。晴れた日は、霧島や開聞岳も眺められるほど景色のよいところである。

公園の広場には、寺山の賦の碑がたつて

いる。

この碑には漢詩が刻まれている。これは第七高等学校造士館（現在の鹿児島大学）の最初の館長であった岩崎行親が、昭和2年（1927）、寺山から眺めたすばらしさと、吉野台地で開墾にはげんだ西郷隆盛をしのんで詠んだものである。

岩崎は教育者として西郷を大変尊敬していた。とくに西郷の敬天愛人の考え方を理想として、毎日の学習に取り入れたといわれている。



●所在地／鹿児島市吉野町（寺山公園内） ●交通／あいばす 寺山ふれあい公園バス停 ●駐車場／有

## 南洲翁開墾地遺跡碑 ▶ なんしゅうおうかいこんちいせきひ

記念物／史跡

【MAP J-6】

明治6年(1873), 朝鮮への使節派遣に反対されて帰郷した西郷隆盛は、翌々年ここに開墾社をつくり、この一帯およそ39haを開墾し、生徒と共にくわをふるった。当時の開墾社には西郷と行動をとともにした陸軍教導団りくぐんきょうどうだんの生徒も約100名入っていた。そして、昼間は開墾につとめ夜は学問にはげんだ。

石碑の前のあたりは、寺山私学校(教導学校)があったところである。



●所在地／鹿児島市吉野町(寺山自然遊歩道内) ●交通／あいばす 寺山ふれあい公園バス停 ●駐車場／有

## アラビア馬牧場跡 ▶ あらびあうまぼくじょうあと

記念物／史跡

【MAP J-6】

新牧といわれるところが、アラビア馬の牧場の跡で、現在は公園として整備されている。

種子島たねがしまに鉄砲が入ってきた天文12年(1543)のころで、唐牧ともいわれた。

また、このあたりは弥生土器やよいどきが発見されたところでもある。



●所在地／鹿児島市吉野町(寺山ふれあい公園内) ●交通／あいばす 寺山ふれあい公園バス停 ●駐車場／有

## 南洲翁愛馬塚の碑 ▶ なんしゅうおうあいばづかのひ

記念物／史跡

【MAP J-6】

寺山ふれあい公園バス停近くの鹿児島師範学校寺山修練道場跡碑から寺山入口に向かって右側の荒地の中に石碑がある。

征韓論せいがんろんで鹿児島に帰った西郷隆盛が、寺山で開墾に従事した時、使用した愛馬が病死したため、建てられた墓である。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／あいばす 寺山ふれあい公園バス停 ●駐車場／無

## 開屋谷石塔群 ▶せきやたにせきとうぐん

記念物／史跡

【MAP 1-6】

### 開墾者たちの逆修供養塔



この石塔群は、平安末期の文治年間（1185～1190）から建永年間（1206～1207）、嘉禎年間（1235～1238）、建長年間（1249～

1256）、文永年間（1264～1275）、弘安年間（1278～1288）の数次にわたって建てられた、この地の開拓者たちの逆修供養塔である。

また、同時に平安期の荘園時代に奴と呼ばれる使用人の供養塔（長卵形の自然石）も見つかっている。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／あいばす 開屋谷バス停 ●駐車場／無

## 花倉坂の戦跡と磨崖梵字 ▶けくらざかのせんせきとまがいぼんじ

記念物／史跡

【MAP 1-8】

花倉坂入口（西郷南洲蘇生の家）から七社に通ずる花倉坂の9合目付近にある。

西南戦争で激しい戦いがあったところである。また、ここは磯別邸の北の方向にあたるため、梵字を刻んだ魔除けの大きな磨崖がある。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／吉循7バス停 ●駐車場／無

## 石郷遺跡と洞窟跡 ▶いしごういせきとどうくつあと

記念物／史跡

【MAP 1-7】

大正4年（1915）、英国人マンロー博士によって、縄文遺跡として鹿児島県では初めて発掘調査が行われ、縄文時代の土器の破片や住居跡が発見された。

また、東斜面のシラスの崖面に、人が住んでいたのではないと思われる洞窟も発見された。マンロー博士は先住民族の使用

した穴だとしたが、はっきりしたことはわかっていない。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／観測所前バス停 ●駐車場／無

吉野牧場跡 ▶よしのぼくじょうあと

記念物／史跡

【MAP J-5】

寺山牧場として牛を放牧していた一帯は、今から約600年前に始められた馬の放牧場のあったところである。特に、江戸時代、藩の馬の牧場として使われ、馬の改良や保護をしていた。そのため鹿児島は、九州第一の馬の産地として知られ、文政9年

(1826)ごろは239頭の馬がこの牧場で飼われていた。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●駐車場／無

七社神社 ▶ななやしろじんじや

有形文化財／建造物

【MAP I-7】

享保2年(1717)の猷燈<sup>けんとう</sup>があるところから、300年近くも前にたてられた古い神社であることがわかる。祭<sup>まつり</sup>てあるのは、大<sup>おほ</sup>国<sup>くに</sup>主<sup>ぬし</sup>命<sup>のみこと</sup>のほか日<sup>ひ</sup>吉<sup>よし</sup>山<sup>さん</sup>王<sup>わう</sup>神<sup>かみ</sup>ら七<sup>しち</sup>社<sup>しゃ</sup>といわれている。また、境<sup>かい</sup>内<sup>ない</sup>北<sup>きた</sup>側<sup>がわ</sup>の丘<sup>かみ</sup>の上<sup>うへ</sup>には、薬<sup>やく</sup>師<sup>し</sup>如<sup>にょ</sup>来<sup>らい</sup>石<sup>せき</sup>祠<sup>まじ</sup>もあつて、病<sup>やま</sup>気<sup>が</sup>のときなどに祈<sup>いのち</sup>つ

たそうである。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交 通／七社バス停 ●駐車場／有

上原巴碑・荒神 ▶かんのばいゆうひ・こうじん

記念物／史跡

【MAP J-6】

上之原バス停北約100mの位置にある。安政3年(1856)2月11日の奉<sup>ほう</sup>寄<sup>き</sup>進<sup>しん</sup>になる猷<sup>けん</sup>燈<sup>とう</sup>1基<sup>き</sup>があるので、150年以上を経過している。祭<sup>まつり</sup>神<sup>かみ</sup>として、瓊<sup>に</sup>瓊<sup>ぎのみこと</sup>杵<sup>き</sup>命<sup>のみこと</sup>、木<sup>この</sup>花<sup>はな</sup>咲<sup>はな</sup>耶<sup>さ</sup>姫<sup>ひめ</sup>、彦<sup>ひこ</sup>火<sup>ほ</sup>々<sup>は</sup>出<sup>で</sup>見<sup>み</sup>命<sup>のみこと</sup>、鶴<sup>うが</sup>縞<sup>が</sup>草<sup>ふきあすのみこと</sup>不<sup>たまり</sup>合<sup>よひめ</sup>命<sup>のみこと</sup>、玉<sup>たま</sup>依<sup>よ</sup>姫<sup>ひめ</sup>の5神を祭る。



●所在地／鹿児島市吉野町(上之原振興会館敷地内) ●交 通／市営 上之原バス停 ●駐車場／有

菖蒲谷の二十三夜待塔 ▶しょうぶだにのにじゅうさんやまちとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP I-6】

高さ2.6mで、かさ石に龍の姿が刻まれた、六角形の石塔である。200年以上前に建てられたもので、「天明八年申戌十月吉日」(天明八年→1788)と刻んである。昔は毎月二十三日の夜、お供えをしながら月の出を待ち、遠くで暮らす家族の無事を祈つ

たとのことである。



●所在地／鹿児島市吉野町(菖蒲神社内) ●交 通／あいばす 菖蒲谷運動場前バス停 ●駐車場／無

## 川上操六大将誕生地碑 ▶かわかみそうろうたいしょうたんじょうちひ

記念物／史跡

【MAP 1-7】

中ノ町公民館敷地内に、川上操六大将誕生地碑がある。川上操六は、嘉永元年(1848)出生、明治32年(1899)死去。桐野利秋、別府晋介等と共に、吉野町が生んだ明治の人傑である。明治期の日本陸軍の兵制をフランス式からドイツ式にかえ、日清戦争で活躍した。後に陸軍大将となる。



●所在地／鹿児島市吉野町(中ノ町公民館ちびっこ広場内) ●交通／吉循3バス停 ●駐車場／無

## 薩摩義士永田左衛門の墓 ▶さつまぎしながたもくざえもんのはか

記念物／史跡

【MAP 1-7】

宝暦3年(1753)12月25日、徳川幕府は、薩摩藩に木曾川・長良川・揖斐川の治水工事を命じた。永田左衛門もこの宝暦治水に参加し、宝暦4年(1754)9月15日に切腹した。現在、岐阜県安八郡輪之内町楡保新田にある臨濟宗江翁寺の墓地に、「一雲清無居士」として手厚く守られている。



●所在地／鹿児島市吉野町 ●交通／市営 中別府入口バス停 ●駐車場／無

## 旧集成館 附 寺山炭窯跡 関吉の疎水溝(関吉の疎水溝)

▶きゅうしゅうせいかん つけたりてらやますみがまあと せきよしのそすいこう(せきよしのそすいこう)

国指定／記念物／史跡

【MAP 6-6】

## 吉貴の隠居時、仙巖園への給水のために造られた



構木川の上流、関吉から磯までの約7kmにおよぶ水路である。島津家21代当主吉貴が隠居した頃に造られたと考えられる。

28代当主斉彬は集成館事業のためにこの用水の流路を一部変更し、動力源として利用した。今でも実方橋の手前まで農業用水として利用されている。

平成26年(2014)、国の記念物(史跡)に指定させた。また平成27年(2015)に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つとなった。



●所在地／鹿児島市下田町 ●交通／関吉の疎水溝入口バス停 ●駐車場／有

鹿児島市川上町の田の神 ▶かごしましわかわかみちょうのたのかみ

県指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP G-6】

嵐や干ばつに耐え、田を見守る「タノカンサー」



川上小学校のすぐ近く、周りの水田地帯を眺めるようにして田の神舞神職型の石像がたっている。

高さ82cmもある田の神は、大黒さまのよ

うなダブダブの服にコシキのシキをかぶり、手に杓子とスリコギを持ち、左足をあげた姿は、今にも踊り出しそうである。

建立は寛保元年(1741)頃で、親しみやすい、ユーモアにあふれた石像である。

昭和41年(1966)、鹿児島県の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市川上町 ●交通／あいばす 緑ヶ丘団地入口バス停 ●駐車場／無

阿弥陀如来像 ▶あみだによらいぞう

記念物／史跡

【MAP G-6】

西本願寺川上出張所の境内の池の崖の上に、阿弥陀如来の座像が置かれている。その他、首のない仁王像などあって、明治2年(1869)の廃仏毀釈によって破壊されたあとの無残な姿を残している。



●所在地／鹿児島市川上町 ●交通／あいばす 緑ヶ丘団地入口バス停 ●駐車場／有(西本願寺川上出張所駐車場)

## 明治日本の産業革命遺産

ユネスコ（国連教育科学文化機関）が定める世界遺産には文化遺産と自然遺産それに複合遺産の三つの種類がある。「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は文化遺産として、平成27年（2015）7月8日に登録された。登録への取組は、平成17年（2005）に鹿児島で開催された「九州近代化産業遺産シンポジウム」（かごしま宣言）に始まり、平成20年（2008）10月には関係自治体による世界遺産登録推進協議会を設置。翌年には世界遺産の暫定リストに記載された。平成27年（2015）5月にイコモス（国際記念物遺跡会議）が世界遺産登録を勧告。7月、10年の歳月を経て登録が決定した。

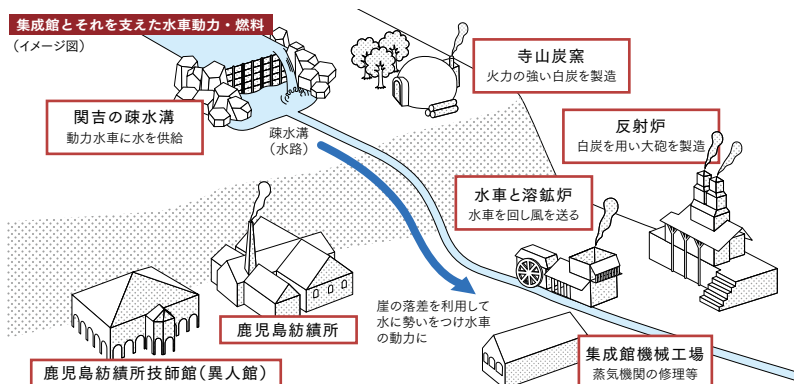
わが国には現在、文化遺産15件、自然遺産4件の計19件が存在している。鹿児島県は平成5年（1993）に登録された世界自然遺産の屋久島があり、全国で唯一文化、自然の両分野を持つ県となった。

今回、「明治日本の産業革命遺産 製

鉄・製鋼、造船、石炭産業」の名称で登録された世界文化遺産の特徴をみると次のように考えられる。

1つ目は、8県11市にまたがる資産群であること、2つ目は幕末から明治時代にかけての極めて短期間に西欧諸国以外で初めて工業の近代化を成し遂げたこと、そして3つ目は、23の産業遺産で構成されており、現在でも稼働している資産が含まれていることである。23の構成資産は8つのエリアに区分されている。①萩②鹿児島③蕨山④釜石⑤佐賀⑥長崎⑦三池⑧八幡のエリアである。このようなエリアが全体として物語を構成する資産を示していることが、大きな特徴といえよう。

わが国は19世紀後半から20世紀初頭にかけて、製鉄・製鋼、造船、石炭産業を基盤に重工業において急速な産業化を成し遂げ、1850年代～1910年までの50年余りという短期間で伝統文化と西洋の技術を融合し、非西洋で最初の産業国家に





なっていく。その段階としては西洋の技術書に基づく試行錯誤の実験段階期と西洋技術を外国人技術者からの直接的導入期、そして西洋の技術を改良して本格的な産業化を達成した時期という3段階で発展を捉えることができよう。

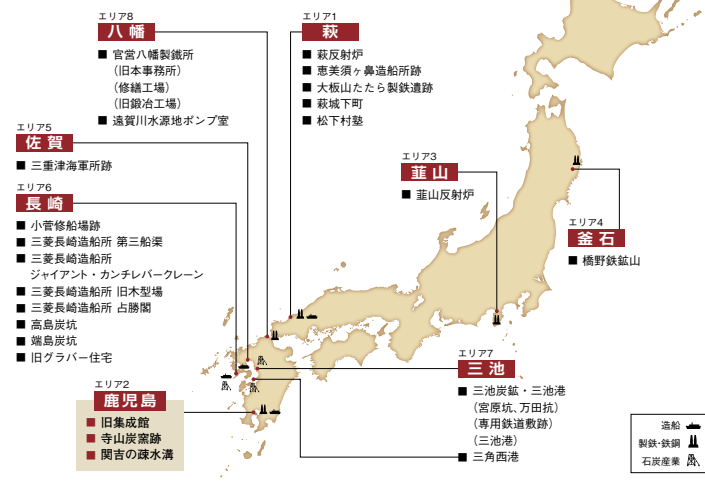
なお、鹿児島市にある構成資産は旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝である。いずれも吉野地区に存在し、なかでも磯地区の旧集成館には尚古集成館（旧集成館機械工場）、異人館（旧鹿児島紡績所技師館）そして、仙巖園などが含まれる。仙巖園は万治元年（1658）に島津家19代当主島津久光が築いた別邸で、28代当主斉彬は、この地を起点に殖産興業と富国強兵に取り組んだ。嘉永6年（1853）に反射炉一号炉が完成。安政4年（1857）に鹿児島（鶴丸）城内に開物館を設置。同年、磯の工場群を集成館と命名した。集成館には反射炉、溶鉱炉、ガラス製造所

等が作られ、造船所や紡績所を含めた1200人が働く工場群（団地）となった。

しかし、文久3年（1863）の薩英戦争では施設の大半を焼失。現在の尚古集成館は慶応元年（1865）に完成。船舶装備用の部品を製造した機械工場であった。慶応3年（1867）には旧鹿児島紡績所技師館（異人館）が完成。これらの再建は29代当主忠義、国父と呼ばれた島津久光によるものであった。

また、寺山炭窯跡は集成館事業に用いる燃料として、火力の強い白炭を製造した炭窯跡で、三基のうち一基が当時の姿で残されている。さらに、関吉の疎水溝は、集成館の施設の動力源とし、水を供給した水路の遺構で、当時の取水口の跡などが残っている。この水路は地形の勾配を利用し、取水口である関吉から約7kmに渡って延びていたといわれる。現在でも一部は農業用の水路として利用されている。

### 構成資産の分布



## 田の神

### 地域の歴史を見守る石像

田んぼのあぜ道を歩いていると、土地の言葉で「田の神さあ(タノカンサア)」と呼ばれる古びた石像をよく見かける。

田の神はその名の示す通り田んぼを守り米作りの豊作をもたらす農業神。

田の神の起源は、薩摩藩で本格的な開田事業が盛んに行われた17世紀の終わりから18世紀の初めにさかのぼると考えられる。鹿児島市で最も古いとされる永田の田の神(谷山地区)には、享保6年(1721)の年号が刻まれている。この頃から鹿児島市内でも田畦に田の神が立ってきたのであろう。

田んぼのあぜ道などに田の神像をたてる風習は五穀豊穡を願って農民たちが自然発生的に起こした信仰なのだろうか。

それとも薩摩藩の食糧増産政策の一環としての始まりの風習なのか定かではない。

田の神像の型には、様々なものがあった、変化に富んでいる。

小野重朗氏によると、はじめ田の神像を作るときには仏像や神像をそのまま彫っていたが、次第に身近で日常に接触して人々の信仰生活を指導する僧や神職をモデルとして田の神像を作ようになったとのことである。(黎明館企画特別展 田の神展示図録より引用)

さらに静止した姿の像を発展させて、活動的な姿として僧の場合は村々を托鉢し頭田袋を下げて廻る姿(旅僧型)、神職の場合は神舞(神舞神職型)、特に田の神舞を舞う姿(田の神舞神職型)をモデルにして作像するようになり、これが田の神石像の

一般的な型になったと思われる。

田の神舞神職型の田の神は鹿児島市でも数が多い。頭にコシキのシキをかぶり、手には大きな杓子(しやくし)をもち、手や足をあげて踊る姿をしている。

ユーモラスな笑顔の目・鼻・口がとても表情豊かである。田の神像の魅力は素朴でユニークで自由奔放な表現にある。

今にも踊り出しそうな所作は田の神舞のひとつまだろう。

農村のあぜ道に立っていて、ただ田んぼと農作業の日常を見守り続けてきた、とても庶民的な神様である。

石像の周辺は昔、見渡す限り田んぼだった。しかし、近年開発が進んで住宅などがつぎつぎに建てられ風景も様変わりしつつある。

地域の歴史を住民に伝えてくれる石像を地域をあげて大事にしていきたいものである。

なお、鹿児島市の田の神は県指定有形民俗文化財として、山田町の田の神、川上町の田の神、松元町入佐の田の神の3体が指定されている。また、市指定有形民俗文化財として、17体が指定されている。

